

SSH活動報告

成果報告会



10月28日(土)に、本校で成果報告会が行われました。他のSSH校以外にも海外からパヤオ高校の生徒が来校し、交流しました。休憩時間やポスター発表の際には、交流しようと積極的に声をかけている生徒も多くいたため、とても充実した時間を過ごせたと感じました。

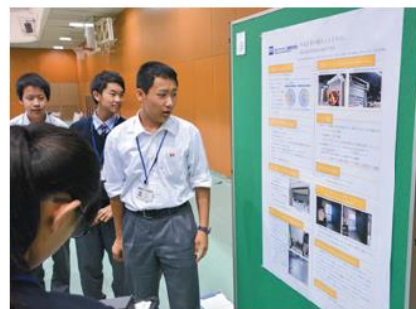
初めての海外交流

1年10組 佐藤 透

今年から1年生もSSH成果報告会で英語の原稿を用意することになりました。今まで英語でプレゼンをした経験がなかったので、この企画を聞いた時、不安でいっぱいでした。日本語が全く伝わらない相手にどうすれば自分の発表を理解してもらえるのか、班員とよく考え、時間をかけて原稿を完成させました。

そして当日、私は原稿の英文を一単語ごと間違えないように慎重に読みました。緊張で下を向いて話してしまっていたのですが、アイコンタクトを取るため顔を上げると、タイの方はうなずきながら一生懸命メモを取っていました。それを見て、自分の英語が相手に伝わっていることに感動しました。タイの方も母国語でない英語を勉強してきたのだと思い、緊張しているのは自分だけではないのだと知り、そこからは自信をもって元気にプレゼンできました。

今回のSSH成果報告会を通して、さまざまな研究発表を聞いて、より理科に興味関心を持ちました。また、自分の英語が伝わったことへの喜びと、もっと英語ができるようになりたいと強く感じました。



ポスター発表を頑張りました

英語発表を経て

2年10組 松本 萌子

私は、今回の成果報告会で英語への関心がとても深まりました。一番のきっかけは、英語での学校紹介です。

原稿からパワーポイントまですべて英語で、わかりやすくするなどを考えて作成するのは難しかったです。英語の先生だけでなくネイティブの先生にもチェックをしていただいたり、発表時のアドバイスなど多くのことが学べました。このようなことをするのは初めてだったので緊張しましたが、大変だった分、とても楽しかったです!

そしてもう一つ、アカデミックプレゼンテーションの授業の様子を紹介するというのでポスター発表をしました。英語と自分の体を精いっぱい使い、パヤオ高校の生徒たちにも伝わるよう頑張りました。いつもの授業で行うよりもはるかに大きい達成感がありました。

私は、今まで英語は苦手だからとあまり積極的なことはしなかったのですが、英語を使い自分の考えた言葉で何かを伝えるということが、今回の成果報告会で体験できて本当によかったです。



英語で質問しました

司会を経験して

3年10組 三上 圭巨

今回私は英語でのポスター発表と司会をしました。この発表会に向けて、自分の研究発表の準備をしました。実験結果がまどまどと苦戦しました。また、私はネイティブの先生と話すのがもともと好きだったので、まず自分が思っていることを伝える努力をし、英語での交流にとっても役に立ったと感じました。ネイティブの先生には感謝していますし、到底1人ではできなかったと思います。本番の日は、緊張より楽しみで仕方ありませんでした。タイの方と最初に交流した時から話が合い、言語の違いを感じさせないほど楽しく感じ、タイ語を丁寧に教えてもらうことができました。ポスター発表では私の周りにたくさんの人が並び、真剣に聞いてくれました。質問に対して、スラスラ答えられたことが本当によかったです。最後にパフォーマンスを行い、今までで一番楽しんでできました。今回の体験は私にとっての本当に良い機会となり、言語や文化を学ぶことがさらに好きになりました。

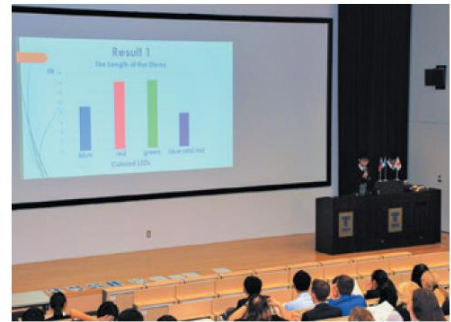


さまざまな交流が行えました

❖ ロシアとカザフスタンから高校生が来校 ❖

10月20日(金)、ロシアから現在交流を行っているガस्पロム教育センターのモスクワ本校と同系列のノヴィ・ウレンゴイ高校、カザフスタンの第54高校から生徒・引率者ら33名が来校しました。全校生徒による歓迎式では、3校の生徒たちによるピアノ演奏、歌、踊りなどが披露され、本校の生徒たちはロシアやカザフスタンの文化の一端に触れ、新鮮な感動を味わったようでした。本校からは吹奏楽部が歓迎演奏を行いました。

午後は高輪キャンパスで、附属浦安高等学校、附属静岡翔洋高等学校を加えた6校の生徒による合同研究発表会が東海大学国際教育センター主催により開催され、「IT教育」「エコロジー」「環境問題」「省エネルギー」の領域に関連する内容について、英語でプレゼンテーションが行われました。本校からは3年SSHクラスから3つのグループ(「巴・外山」「渡邊・武井・齋藤」「藤井・原田」※敬称略)が研究発表を行いました。



巴・外山君の発表



研究発表会終了後の記念写真

<成果報告会の様子>

